

古着支援プロジェクト

1993年春、松木代表がケニアのソマリヤ難民キャンプを訪れたとき、古着を送って欲しいと要請を受け、1993年6月最初の古着支援が始まりました。

以来ほぼ毎年1回集めて、今年で32年です。その後タンザニア政府、タイ政府の方針が変わり、難民支援の古着にも税金を掛けることになり、またコロナのためにコンテナの送料が高騰したため、2022年からは国内で古着をリサイクルすることにいたしました。

しかし、今年は南スーダン北西部、レンク避難民キャンプに送ります。また一部はリサイクルいたします。

第34回 2025年古着募集要項

1: 募集期間

2025年6月2日～16日

※この期間に必ず到着するようにお送りください。

2: 集める古着の種類

夏、冬、大人、こどもの古着全般 Tシャツ、Yシャツ、トレーナー、ジャージ、ズボン、スカート、ジーンズ、背広・スーツ、カーディガン、セーター（ウール可）、コート（ダウン可）、和服、毛皮、ベルト、ネクタイ、帽子、ハンカチ、靴下、ぬいぐるみ、靴、バッグ、シーツ、タオル、毛布

※受付不可なもの：上記の中でシミ、汚れ、破れ、穴、ほつれのある服や着古して劣化した服。下着、柔道着、学ラン。

※和服、毛皮、ベルト、ネクタイ、帽子、ハンカチ、靴下、ぬいぐるみは倉庫に届いて選別し、それらを除いて右写真のように梱包して難民キャンプに送ります。

※洗濯をし、きれいにたたんでお送りください。



3: 会社の作業着ユニフォームなどのリサイクルについては
・ナカノ株式会社エコナ横浜工場「わかちあいプロジェクト係」
・Tel. 045-701-6263にお問い合わせください。

4: 送り先（送料は各自ご負担ください）

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦2-8-6
ナカノ株式会社エコナ横浜工場「わかちあいプロジェクト係」
Tel. 045-701-6263

・募集期間中 持ち込み不可（古着に関する問い合わせは、わかちあいプロジェクト Tel. 03-3634-7809まで）

5: 募金のお願い

段ボール1箱あたり 2000円 の募金をお願いいたします。

※募金は衣類と同梱しないようお願いいたします。

※古着だけの送付は受け付けていません。

※箱のサイズに上限はありません。

・使用目的:

1. 古着募金、横浜港～ケニア、モンバサ港までの海上運賃、モンバサ港～南スーダン、Jubaまでの鉄道運賃、Jubaから避難民キャンプまでのトラック輸送代
2. 難民支援のため、その他、わかちあいプロジェクトの活動のため



わかちあいプロジェクト

わかちあいプロジェクト NEWS No. 40

2025 April



トランスフェア・ジャパン設立時の参加者写真

左から：第3世界ショップ田中さん、第一コーヒー高橋社長、安井さん、アジア学院高見先生、トランスフェア・ジャパン事務局長クツツさん、松木 1993年当時、フェアトレードのコーヒーを扱っている団体は、第3世界ショップだけでした。残念ながら、彼らはラベル運動に参加しませんでした。

1993年11月設立から32年、フェアトレードによる日本からの途上国支援が、年間1億円になりました

松木 傑 わかちあいプロジェクト代表

イオンをはじめ多くの企業がフェアトレードに参加してくださり、みなさまが1個、1個フェアトレードの製品をご購入くださった結果です。

2022年時点で、1910の生産者組織がフェアトレード認証を受けており、これらの組織は1,848,268人の農家と197,118人の労働者で構成されています。

認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパンを含む世界約100カ国の生産国・消費国を束ねるフェアトレード・インターナショナルは2022年の1年間に農家・労働者に支払われたフェアトレード・プレミアムが前年比10%増の過去最高

額、2億2280万ユーロ、日本円にして約307億1000万円に達したことを発表しました。そのうち、約9824万円は日本から送られています。日本の市場規模は2015年100億円を達成し、2023年は200億円を突破しました。

フェアトレード・プレミアム（奨励金）とは、販売価格に上乗せされ生産者組織に支払われるもので、組合や地域コミュニティの経済的・社会的・環境的開発のために使われる資金です。プレミアムの使途は生産者自らが民主的にビジネスや地域への投資方法を検討し選択します。

わかちあいプロジェクトについて

フェアトレードや難民支援活動を通して、開発途上国の人々を支える国際協力NGOです。私たちは1992年にドイツを訪問した際にフェアトレードのしくみを知り、日本で最初の国際フェアトレード認証コーヒー（カフェ・ママ）の販売を開始しました。世界中から製品を取り寄せ、国内では最も多くの国際フェアトレード認証製品を取り扱っており、様々な地域の生産者の自立につなげています。また同じ頃、アフリカ・ソマリア難民救援をきっかけに継続的に難民支援活動に取り組み、現在までアジアやアフリカ、中東の難民生活を余儀なくされる方たちを支援しています。

募金のご協力をお願いします

募金は以下のようにお願いいたします。

① 古着送料募金 1箱あたり2000円

② ウクライナ支援、ミャンマー支援、わかちあいプロジェクト支援
できる限り、海外支援も継続したいと考えております。
皆様からの温かいご支援をお願いいたします。

募金の送付先

郵便振替口座 一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390

クレジットカード

当団体HPよりカード決済が可能です。

▶ <https://www.wakachiai.com/clothes/>



※通信欄に上記募金の種類をご記入ください。

※振替用紙にご住所の明記がない場合や不鮮明であった場合、電信振替で住所が非表示の場合には、報告書等のお知らせをお送りすることができませんので明瞭に記入いただけますと幸いです。

わかちあいプロジェクト NEWS No.40

2025 April (年1回発行)

編集

一般社団法人
わかちあいプロジェクト

デザイン

Design Convivia

発行元

一般社団法人
わかちあいプロジェクト

130-0026
東京都墨田区
両国3-26-11
東和ビル301
TEL: 03-3634-7809
メール:
order@wakachiai.com

クンツさんのその後

販売中のインド産のミツロウラップはマルティン・クンツ博士からの紹介です。

1992年に牧師の海外研修で訪れたドイツで、フェアトレードラベルの構想をクンツさんから聞いたことが、わかちあいプロジェクトのきっかけでした。クンツさんは、学生の頃（1976年）インドに滞在した経験があり、貧困の根本的解決のため自分は何をすべきかという問いに向き合いました。そうして彼はフェアトレードラベルの仕組みを整え、TransFair Internationalの事務局長になり、その後ラベル組織が合同し1997年に現在のFairtrade Internationalが設立された時は初代の事務局長になりました。

1993年、クンツさんの来日にあわせ、日本でトランスフェア・ジャパンを設立しました。わかちあいプロジェクトを長く応援してくださっている方はきっと彼のことをご存知かと思えます。尊敬する友のような存在です。

クンツさんはFairtrade Internationalを辞めた後、プラスチックフリーのガーデニング用品、ゴムの公正取引、アジアの蜂のハチミツやミツロウ製品の事業などに関わっています。

このミツロウラップを作っているインドの先住民コミュニティでは、男性が伝統的なハニーハントを行い、女性がそのハチミツを販売しています。



「ミツバチが絶滅すると、その4年後に人類は滅びる」というアインシュタインの言葉をご存知ですか。これは極端な説ではあるでしょうが、ミツバチが密集めをすることで植物の花粉を運び、受粉を助けてくれないと、植物が繁殖できないという意味です。ミツバチは、環境、そして私たちの食生活にとって、とても重要です。

世界中で養蜂目的で飼育されるのは主に西洋ミツバチです。日本にも、明治時代に西洋ミツバチがアメリカの養蜂技術とともに持ち込まれました。このミツロウラップには、野生オオミツバチのミツロウが使用されています。オオミツバチはインドの在来ミツバチのひとつで、巣箱に住んでくれず養蜂ができません。西洋ミツバチの養蜂をするほうが効率的で安全ですが、インドの先住民コミュニティは森に入り、野生オオミツバチのハニーハントを続けています。

国内避難民の数が増加している現在、すべての場所からニーズが表明されているため、ボルの倉庫から最終目的地まで中古衣料を輸送します。

スーダン紛争勃発後、南スーダンからの帰還者と様々な国籍の難民100万人以上が戦争から逃れ、南スーダンに入国しました。この人口の80%は、アッパーナイル州のレンク郡から入国しました。

これらの帰還者と難民の多くは、最終目的地へと移動しました。しかし、39万人以上（帰還者の65%）がレンク郡に留まることを選択しました。これらのうち1万5000人以上が現在、既存のトランジットセンターに住んでいます。残りは、レンク郡の非公式居住地にいて、自発的にホストコミュニティに統合されています。

スーダン紛争の影響を受けたこの人口の特徴は、極度の脆弱性です。戦争が激化する中、家族は安全を求めて逃げただけです。彼らは基本的な家庭用品や衣服など、すべてを残してきました。そ

のため、子供や女性だけでなく、男性や障害者も衣服が極度に不足しています。彼らは生き残るために必要なものすべてを人道援助に頼っています。

世界中で援助疲れが広がっているため、レンクで活動する国連機関、国際機関、国内非政府組織は、限られた資源を使うために人命救助活動のみを優先しています。

優先されるサービスには、医療、食料、衛生施設、避難所などがあります。この優先化により、衣類などの他の必須のニーズが取り残されています。衣類の提供が不足しているため、善意のある個人または団体から中古の衣類の支援を要請する必要があります。支援は、障がい者を含む子供、女性、男性を主な対象として支援するために使われます。



ウクライナ支援

ウクライナの危機に対応して、LWFウクライナは、避難所の修復、越冬、教育/学校の修復、保護、多目的現金援助、生計の分野で、ハルキフ州とチェルニーヒウ州で人道活動を開始しました。

LWFウクライナは、キエフ市とハルキフ市の2つの事務所を通じて、国内避難民やその他の被災コミュニティを支援することを目指しています。

※LWF: ルーテル世界連盟 Lutheran World Federation



ミャンマー支援

現在のミャンマー内戦により、多くの市民が家を失い、命の危険を避けるために避難を余儀なくされています。避難民の支援は、単なる緊急援助を超えて、彼らの尊厳と未来に希望をもたらす重要な取り組みです。食料や医療、避難所の提供はもちろん、心理的支援や教育支援など、総合的な支援が求められています。



救援物資を配布するミャーさん

ミャンマー教育支援

2021年のミャンマーの政治危機は、カレンニ地域に深刻な影響を及ぼしました。35万人以上の民間人（州の人口の80%）が避難し、軍事政権と革命勢力の間で広範囲にわたる武力紛争が勃発しました。この政治危機の中で、教育システムは他の分野とともに崩壊し、多くの若者が軍事政権に抗議して学校を去りました。継続的な安全保障上の脅威、急速な避難、およびリソースの不足により、すべての若者が正式な教育に戻ることはほぼ不可能になっています。2024年までに、カレンニ避難民コミュニティに8つの代替学校が設立され、避難した学生の学業学習に重点を置き、高校卒業生に大学教育に相当するプログラムを提供しています。

これらの学校は600人以上の若者に教育を提供しましたが、高等教育を継続できたのはほんの数人です。教育を受けている人々へのリソースが限られており、安全上のリスクがあるため、若者と教育の格差が

広がっています。この格差の拡大は、コミュニティの将来の発展にとって大きな脅威となります。これらの障壁を克服し、若者が教育にアクセスし、地域の発展に貢献できるようにするには、変革的なアプローチが必要です。

教育プロジェクトの目的

何よりもまず、私たちは、進行中の武力紛争に苦しんでいるカレンニコミュニティのために持続可能な教育プラットフォームを構築したいと考えています。これは、彼らの教育、特に高等教育の機会に追いつくことがほとんど不可能だからです。数多くの課題がある中で、私たちは彼らが求めるキャリアパスの潜在的な機会を提供し、指導することで解決策を見つける必要があります。私たちの目標は、成功するために必要な指導とリソースを提供することで、若い学習者が直面する課題にもかかわらず教育を継続できるようにすることです。

コーヒープロジェクトのその後

2015年、ミャンマー、カヤ州、ラエブラ村で村人の収入向上のためにコーヒープロジェクトが始まりました。その後3年間このプロジェクトは進められました。

山本さんが現場の指導者として3年間にわたり、有機農法などコーヒー栽培に関する技術指導をしてくださいました。ミャーリーさんと私、ウティロがそのアシスタントを務めました。

18家族がコーヒー栽培のメンバーです。このプロジェクトは2018年に終了しましたが、その後農民たちは自分たち

でこのプロジェクトを継続させ、2022年少量ですが最初の収穫が得られました。2023年には18家族のうち10家族がコーヒーチェリーの果肉を取り除き、生豆まで加工しました。1.6kgを5ドルで売れました。

今年は1.6kgが8ドルで売れました。豆は仲買人に販売され、収入を得る方法を村人は学んでいます。いまではコーヒー栽培が村全体に広がっています。

しかし、現在のコーヒーチェリーの果肉を取り除く機械は不十分です。また、コーヒーに日陰をつくるナイロン

貧弱な手製の機械 ウティロさんの家族



メッシュが必要です。ラエブラ村でのコーヒープロジェクトはこの地域の事業になっています。

ぜひ、コーヒーチェリーの果肉を取り除く機械と70メッシュのナイロンカバーの支援をよろしくお願いいたします。